

2月7日の和歌山県北部の地震について

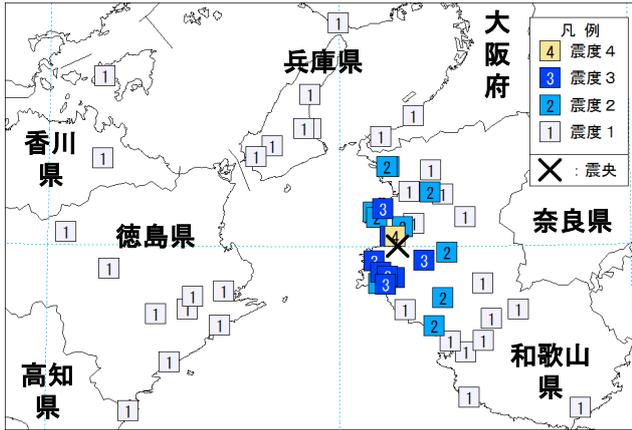


図1 観測点震度分布図(×は震央)

7日20時59分、和歌山県北部の地震(深さ7km、M4.1)により、和歌山県湯浅町で震度4を観測したほか、近畿・四国地方で震度3～1を観測しました(図1)。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生しました。この地震の発生後、9日12時までには震源付近で震度1以上の揺れを観測する地震は発生していません。

1997年10月以降の地震活動をみると、今回の地震の震央付近(図2の領域a)は、定常的に地震活動がみられる領域で、M4.0以上の地震が時々発生しています(図3)。このうち、2011年7月5日に発生したM5.5の地震(最大震度5強)では、住家一部破損21棟などの被害が生じています(総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(図4の領域b)では、M5.0を超える地震が時々発生していますが、M6.0を超える地震は発生していません(図5)。

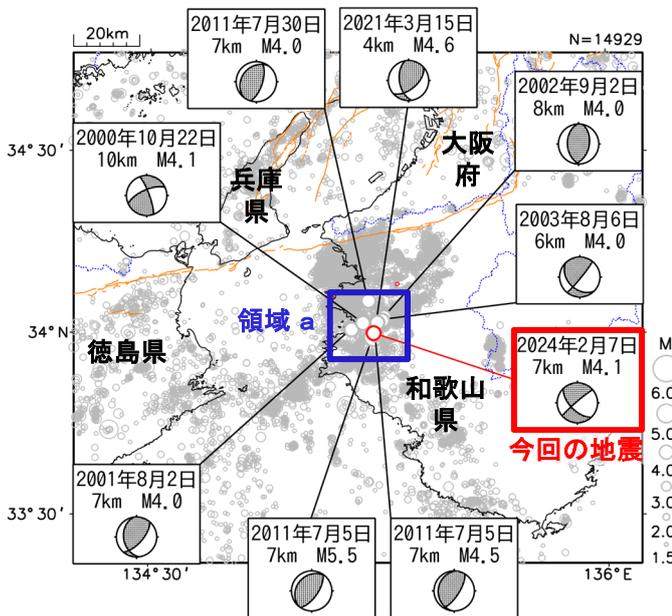


図2 震央分布図
(1997年10月1日～2024年2月8日、
深さ0～20km、M \geq 1.5、
2024年2月7日以降の地震を赤く表示)

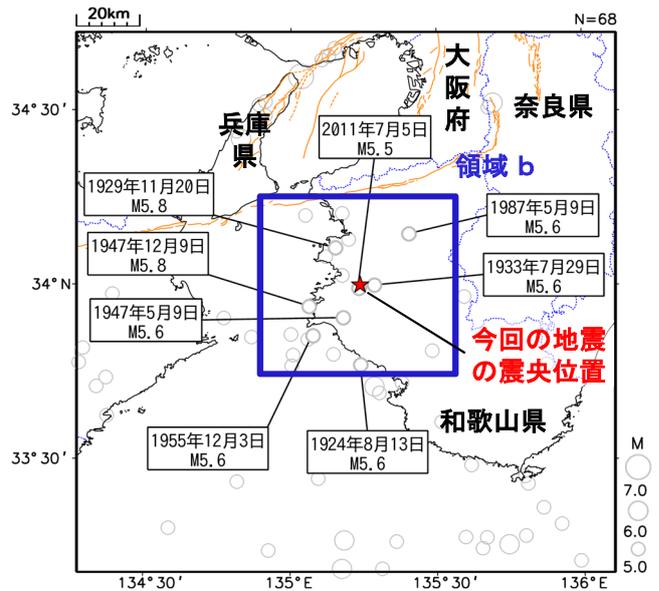


図4 震央分布図
(1919年1月1日～2024年2月8日、
深さ0～40km、M \geq 5.0)

※ 図2、4の橙線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を示しています。

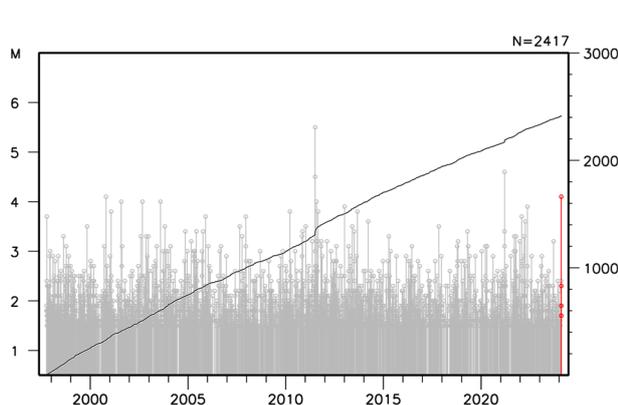


図3 図2の領域a内の規模別地震活動経過図
及び回数積算図

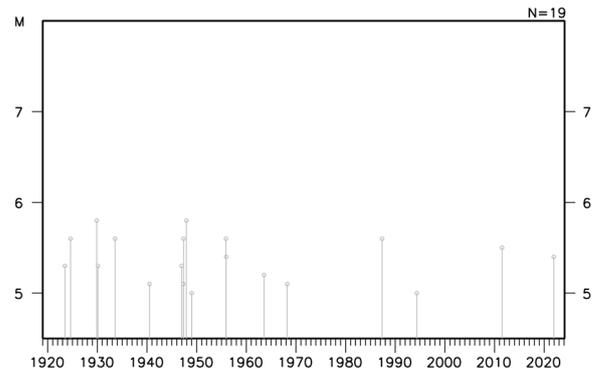


図5 図4の領域b内の規模別地震活動経過図